

九州森林管理局交渉(全国林野関連労働組合 九州地方本部)

(議事要旨)

1 日 時 平成28年7月13日(水) 17:30~18:30(60分)

2 場 所 九州森林管理局4階会議室

3 出席者

九州森林管理局	総務企画部長	堂本	整
〃	計画保全部長	吉永	俊郎
〃	森林整備部長	大政	康史
〃	総務課長	山本	博
〃	森林整備課長	古閑	博行
〃	資源活用課長	西	栄二
〃	総務課長補佐(総務担当)	松永	眞弥
全国林野関連労働組合九州地方本部	執行委員長	甲斐	和幸
〃	副執行委員長	加藤	吉征
〃	書記長	山下	和也
〃	執行委員	山口	隆志
〃	執行委員	古澤	寿光
〃	執行委員	中島	純也

4 交渉事項

- (1) 平成29年度業務運営に係る労働条件について
- (2) 主伐・再造林等の拡大に伴う職員の労働条件について
- (3) 各システムに係る職員への負担軽減について
- (4) 労働安全問題について

5 議事概要

- (1) 平成29年度業務運営に係る労働条件について  
組合) 森林・林業再生に向けた貢献など、国有林の役割・使命を果たすための施策の実施に向けては、職員の労働条件に大きく影響することから、九州国有林としての具体的な取り組みを聞きたい。  
また、要員不足による空きポストや予算の不足などにより、職員の労働過重にならないようお願いする。

当局) 地域の課題解決に向け局、署一体となって「国民の森林」としての管理運営に向けて取り組むこととしたい。そのためには、職員の災害や健康に留意しながら円滑な業務運営に努めて参りたい。

要員については、空きポストがあり職員にご苦労いただいていることは認識している。特定の職員が労働過重とならないよう、今後も業務の平準化と事業運営に係る予算確保に努めて参りたい。

組合) 熊本地震への業務負担が増加している。民有林支援については国として実施すべきことで当然であるが、職員の労働過重とは別物である。労働過重とならないよう申し入れたい。限定的なポスト配置をお願いする。

当局) 地震対応における職員の勤務の取り扱いについては、適切な実施について指導してきたところである。

これからも民有林支援は継続していくこととなる。局内及び署からの応援体制を整備し、特定の個人に負担がかからないよう目配り、気配りをしながら事務を進めて参りたい。

なお、新たなポスト配置については、上部へ要求して参りたい。

(2) 主伐・再造林等の拡大に伴う職員の労働条件について

組合) 主伐・再造林の拡大に伴い、職員の業務量が増加し、労働条件に大きく影響することから、各課題への具体的対策について伺いたい。

当局) 収穫調査の簡素化やシカ対策など再造林のコスト低減に向けて進めているところ。

引き続き主伐・再造林等の拡大に伴い職員が労働過重とならないよう署等と連携しながら課題解消に向け努力して参りたい。

(3) 各システムに係る職員への負担軽減について

組合) 各種システムについては、本格運用が始まり職員が熟知できる対策をとるよう要望してきたが、一部混乱がおきている状況をどの様に考えているのか。

当局) 農林水産省行政情報システムの障害については承知している。障害の改善については、職員へ丁寧な対応をするとともに、改善要望があった事項については上部へ進達しているところである。

組合) 各意見への取り組みや問題点の是正と担当者の負担軽減、個別への対応など適切な運用が図れるようお願いする。

当局) 各種システムの運用に支障が出ないよう努めて参りたい。

(3) 労働安全問題について

組合) 3点について確認とお願いをしたい。

- ①前回の交渉で発言したとおり安全指導の工夫が必要であり、現場での理解が必要。これに対する考えに変わりはないか。
- ②管理者の安全に関する意識について緊張感をもって取り組むよう願う。
- ③当局として直請問わず我が職場から災害を出さないという強い決意表明をお願いする。

当局) 安全週間中には安全意識を高めるために、新たな取り組みとして各署の安全大会に併せてウェブ会議システムを利用した局幹部によるメッセージを発信したところ。

今後とも安全指導については、マンネリ化することがないように工夫を凝らしながら進めて参りたい。

また、請負事業者の災害防止については、安全指導のマンネリ化防止のため、他署の事例を参考にし指導するなどソフト面の改善も考えて行きたい。また、チェーンソー使用時の防護衣が義務化されるなどの措置も講じられており、万が一災害が発生した場合でも災害が最小限に止まるようハード面の整備も併せて指導して参りたい。

組合) 今年は昨年度より災害を減少させるようお願いするが、気を抜かないよう機会あるごとに管理者へ指導をお願いする。

当局) あらゆる機会を捉えて注意喚起に努めて参りたい。